

小学校高学年の発達特性をふまえた コミュニケーション能力の育成に関する研究

A Study on the development of communicative
competence in language art

—Taking into the developmental characteristics in grade 5 and 6 —

山 元 悦 子

稲 田 八 穂

Etsuko YAMAMOTO

Yaho INADA

国語教育講座

北九州市立朽網小学校

（平成21年9月30日受理）

1 はじめに 研究の経緯

聞く話すことの指導を児童の発達状況に応じた適時性のある内容と系統を持つものにするためにはどうすればいいか。本稿はこの課題意識の元に行っている継続研究の一環の報告である。

本稿の目的は、コミュニケーション能力の発達研究の成果を元に、児童の発達状況に即した指導のあり方を1年間のカリキュラムの形で具体化し、有効性を考察することにある。^{*1}我々はこれまでに目的を同じくする実践研究を小学校2年生を対象に行ってきた^{*2}。今回の実践研究は小学6年生児童（31名）を対象に稲田教諭が実施した1年間（平成20年度）の実践である。

なお、本研究では「コミュニケーション能力」を、他者との協同活動の中で何かを共有・確認したり新しいものを生み出す行為ができる能力と定義している。

2 小学校高学年（10・11歳児）の発達特性

山元ら（2007）は、これまでの話し合い能力の発達調査から伺える、児童の認知・思考の発達特性を、累積（低学年以降）→分離（中学年以降）→組織化（高学年以降）という指標で捉えてきた。^{*3}高学年の認知・思考における発達指標にしている「組織化」とは、諸々の事象を比較、統合、位置づけながら組織化を図り、話し合いの目的に沿って批判的協同思考を展開する認知・思考様式をさす。

このような思考様式をとりうる素地が高学年で生まれてくるのではないかという仮説に立ち、当該学級児童の話し合いデータを以下のような認知・思考の向かうベクトルを設けて分析した。（詳しくは注1で報告している）。

*1 山元悦子 稲田八穂「コミュニケーション能力の発達に関する研究—小学校5年生における認知・思考の発達特性—」『福岡教育大学紀要』第58号第1分冊 平成21年2月。

*2 山元悦子 稲田八穂「コミュニケーション能力を育てる国語教室カリキュラムの開発—発達特性をふまえたコミュニケーション能力把握に立って—」『福岡教育大学紀要』第57号第1分冊 平成20年2月。

*3 位藤紀美子他（2007）『国語科教育改善のための言語コミュニケーション能力の発達に関する実験的・実践的研究』平成16-18年度科学研究費補助金（基礎研究（B））研究成果報告書，課題番号 16330177）

他者との関係ベクトル／自己へのベクトル／課題（内容）追究ベクトル／状況へのベクトル／協同性
その結果、以下のような状況を指摘することができた。（注1 論文より概略再掲）

○ 他者との関係ベクトル

- ・相手を受け入れる発言がみられる。
- ・「それってこうじゃない？」という発言に現れているように他者を取り込んで自分の中で咀嚼して、返したり、展開したりすることができる。このことは、自分の利益や視点から離れていくことができ、自分の意見にないものを共感的に理解し得る素地ができていることを示している。つまり、自分という中心点から離れて立つことが意識の中でできるということであろう。

○ 自己へのベクトル

- ・自分という中心点から離れ、自分という立ち位置を対象化（モニタリング）して認知することが意識の中で行われるうならば、話し合いにおける自分の役割を意識して臨んだり、どのように説明したらいいかを意識しながらことばを選んで話すことなどができる段階に到達していると考えられる。従って、どのように考えを進めていけばいいのか、どんな言い方をすれば説得力があるのか等の話し方や考え方(思考様式)を学習し、それを意識して使わせながら習熟させる学習も効果的になるのではなかろうか。

○ 課題（内容）追求ベクトル

- ・論理的探究を進める発言が多くはないが見られる。例：「違った言い方をすると」「こうしていったらいいんじゃないの？」
- ・例えを使った具体化や、具体例を抽象的なことばレベルで一般化する発言が見られる。
- ・それまでの話の流れとはべつの観点を持ち出して、検討することができる。
- ・場に出されたいろいろな意見を自分の中で整理しようとする姿勢が見られる。
- ・自分の意見に根拠をそえて説明する発言がほとんどなく、理由も理解せぬまま何となく共感してまとまってしまったり、逆にひたすら意見を主張するものの出された諸意見が吟味されないまま流れていく状態が見られる。

○ 状況へのベクトル

- ・話し合いの流れに関するメタ意識が見られ、場を読んでどう進めたらいいかについては比較的容易に提案できるようである。また、視座の転換ができ、違う観点を持ち出して考えようとする発言も見られた。
これは、物事を引いて見られるようになるということを示している。引いていくというのは、違いの調整ポイントが高くなる、つまりより多くを俯瞰して視野に入れて調整できるようになるということである。引くことでより多くのことが見えるようになり、その諸要素を勘案しながらよりよい考えを生み出していく思考を鍛えていくのが、組織型の話し合いへ導くための高学年の指導方針となるのではないか。

○ 協同性

- ・班の中で協同的を発揮した追究的な話し合いができるかどうかは、課題への親疎の問題や提供資料の情報内容が影響してくるようであった。
- ・グループの中に場の状況や流れを意識して班員に発現を振ったり意見を整理しようという司会者的意識で発言する児童と、考えを構造化して発言する児童がいる場合、深まる話し合いができるようである。
考えを構造化した発言とは、今何が問題なのかを指摘したり、「そもそも何故」といった根本や原因追究を志向した発言、課題を分析したり、場の外側に一步引いて議論されていないことを持ち出したり、今問題になっていることに対して別の観点を示す発言である。
- ・共通点を見いだして合意としたり、意見の足し算で合意を得る姿は見られたが、お互いの意見の違いにこだわり、納得するまで説明し、違いを解決していこうという追究的な協同性はあまりみられない。粘り強くこだわって探究しようとする質の協同性は、学習によって意図的に習得させねば育たないもののように思われる。

3 調査結果から導き出された指導方針－組織型の話し合いへ導くために－

以上のような話し合いで観察できた発達特性を踏まえながら、6年生段階で組織型の話し合いへ導くための指導の指針を次のように定めた。

ここでいう組織型の話し合いとは、「お互いの意見を比較・統合・位置づけながら組織化をはかり、話し合いの目的に沿って批判的協同思考がなされる話し合い」を指し、話し合いの目的を意識しながら他者の意見と自分の意見を対象化して検討・調整・合意形成をはかるようなプロセスをたどることを特徴とする。

○ 自己へのベクトルに関して

- ・主体性を持った聞き方を奨励し、自分の意見を作りながら聞き、それを積極的に伝えていくことを常に促す。
- ・どうしてそう思うのか、自己を対象化して内省しながらそれを言語化する。
- ・自分の考えを整理し筋道立てて表現する思考様式を身につけさせ、それを意識して話そうとする習慣をつける。

○ 他者との関係ベクトルに関して

- ・自分の考えを相手を意識しながらわかるように説明しようとする態度や話す技能を獲得させる。
- ・グループの中に追究的協同性を育てる。

○ 課題（内容）追究ベクトルに関して

- ・論理的探究が行われる話し合いを実現させるために、次のような論理的探究のための思考様式を取り立てて学習させた。
主張と根拠／ラベリング／マッピング／大きな視点で捉える／「例えば」と置き換えて考える／多角的な視点で物事を捉える
- ・自分の意見を言うときは根拠を示すことを習慣づける。

○ 状況へのベクトルに関して

- ・進行を意識して話し合いに臨む経験を積ませる。
- ・討論会を録音したCDを聞いて検討することで、話し合いについてのモニタリング思考を促す。
- ・お互いの意見を検討する中で生まれてくる疑問をその場で即興的に出し合いながらそれについて考えを作っていく協同思考体験を重ねる。

4 指導方針の具体化

この指導方針を、次のように具体化し、指導を進めていった。

○ 協同性育成の面から

- (1) コミュニケーションの価値や意義を実感させ、体得させる
 - ・学級の学びを自分たちで作ることを学習方針とする。
 - ・自分たちの話し合いを振り返る学習を行う。
- (2) 他者との関係を作る
 - ・教師や児童による読み聞かせを活用したシェアリングタイム
 - ・聞き取りメモを活用し、相手の話を聞いて自分の思いや考えを広げる。
 - ・鉛筆対談をし、書いて対話することで相手の意見をきちんと受けとめて返す体験を重ね、心のパイプをつなぐ。具体的には、タイムリーな話題についてペアで鉛筆対談の形で紙上意見交換をし、相手の意見を受けいれて話を展開することを可視化しながら体験させる。活動後は、活動を振り返ることで、書くことによる対話活動中の自分を見つめさせた。それによって自己へ向かう意識を育てようとした。
 - ・児童の中から生まれてきた他者へのフォローアップ発言を逃さずとりあげ、意義付け、他の児童へその指向性が広がるように働きかける。具体的には、「今日は誰の言葉（発言）に助けてもらったか」を日々問いかける。
- (3) アイデアを共創する
 - ・二人やグループでマッピングしながら考えを作る学習を学習活動として頻繁に行った。

○ 論理的探究活動を成立させる面から

- (4) 論理的探究を支える具体的な思考様式を取り立てて指導する

- ・課題を分析し考えを生み出したり、出された考えを整理し展開させていく思考を促すためには、観点を立てて物事を捉えたり、多面的な視点や俯瞰する視点から物事を考える思考体験が必要である。そこでそのような思考活動を取り立てて自覚的に行う学習「考える練習タイム」（1単位時間程度）を実施する。

また、そのような取り立てて学習した思考様式を定着させるために、継続的な話し合いタイムを設けて、グループごとに自由な意見交換をする話し合いを行った。

- ・取り上げた思考様式

①主張と理由と根拠

②比較・分類・構造化

条件をつけて意見を整理する。樹形図を用いて整理する。

マッピングで広げ、出たアイデアを構造的に整理する。

③縦思考（具体化と一般化）

いくつかのことから共通するものを取り出したり共通点で束ねたりする、具体化と一般化、抽象のレベルの上げ下げ、全体から俯瞰する（例：学級の問題を学校全体の視点から見る）、意見を束ねた上で見出しやくくる言葉を考える等。

④相手の意図をくみ取る

相手と意見が違うときは、反対意見を主張するのではなく、一つ一つの考えについて、どこが納得できないかを伝え、もっと詳しく理解しようとする。違いを尋ね合い、きめ細かく追究していく。

⑤多面的思考

それまでになかった視点を出す、「〇〇の立場から見ると」、「逆から言うと」と考えていく。

⑥話題を分析・分節化して順序立てて考えていく。

単元「言葉調べ」学習を進めるために何を話し合えばいいかを手順化する。

- 話し合い活動をメタ認知する意識を育てる面から

- ・自分たちの行った話し合いを文字興しした資料を読み合い、気づきを出し合う中で、話し合うときに大切なことを一般化して掴ませた。

- （１）から（４）の連関について

- ・教室コミュニケーション文化を育てることを土台に据え、自分と場や他者を関わる態度形成を図ることを常に学習の基底に置く。
- ・論理的探究を進める技能を取り立てて指導し、それを日々の学習で活用する往還指導を心がける。
- ・取り立て指導と合わせて、協同的に問題を追究する話し合いの機会を日常的に作るためにミニ討議学習を行う。

- 組織型の話し合い指導にあたっての配慮事項

組織型の話し合いが可能になるのは、認知発達面の要因もさることながら、コミュニケーション文化面の成熟がいっそう必要になってくる。高学年になれば組織型の話し合いが期待できると短絡的に結びつけることはできない。

組織型の話し合いができるには、

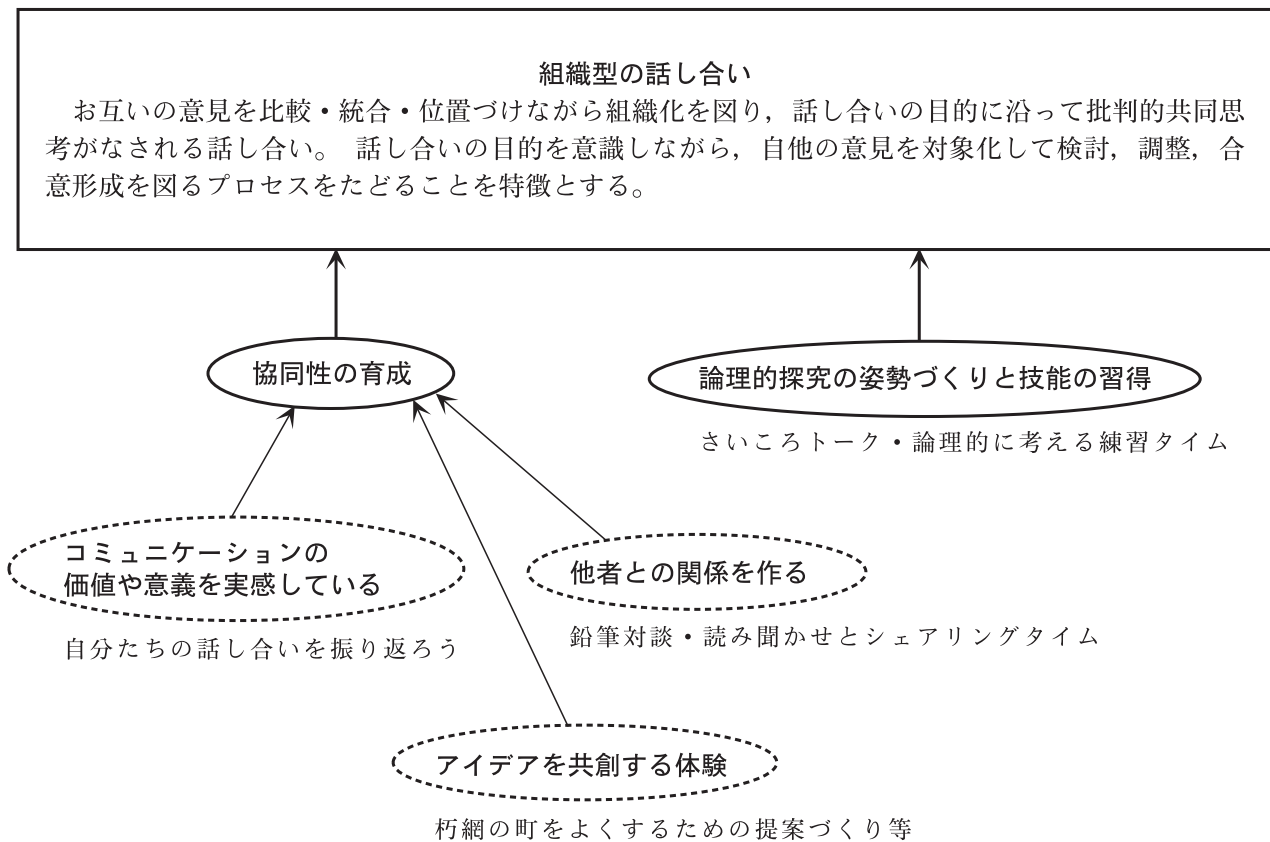
1 協同性（話し合いの内容を他者と協同してよりよいものに作り上げていく姿勢）

2 社会的行為性（メンバーの合意を高める方向で話し合いに参加する姿勢）

3 主体性（他者に対して積極的に関わろうとする姿勢）

の成熟が必要である。しかしこれらの発達特性は、これまでの教師へのアンケート調査によると、発達段階的な発現が見られないものであった。それは、これらの特性は、ある特定の段階で発現されるものというよりも、外からの働きかけを通して学級の中に環境が整えられた場合に、個人の中で形成されていく性質のものだからではないか。従って協同的に探究していこうとする組織型の話し合いができるようになるには、環境（主には教師）からの、これらの性質を集団の中で形成しようとする積極的な働きかけが必要である。

「組織型話し合い」を目指した指導構想図



5 カリキュラム構築の枠組み

カリキュラムを構築する上で以下のような枠組みを設け、重層的に指導を行った。

- 学級のコミュニケーション文化作り
 - ①読み聞かせを活用したシェアリングタイム
 - ②書くことによるコミュニケーションルートの活用
 - ③ソーシャルスキルゲーム
 - ④話し合いの学級ルール作り
- 国語科授業での指導
 - ①話す聞くことの指導を目的とする取り立て单元
 - ②話す聞く活動を活用する单元
- 習得学習
 - ①考える練習タイム
 - ②継続的な話し合いタイム

6 指導の経過

このようなカリキュラム構築上の枠組みに沿って実施した活動は表1のようなものである。

表1 年間の学習指導経過

月	国語科授業		習得学習		学級のコミュニケーション文化作り
	話す聞く活動を活用する単元	話す聞くことの指導を目的とする取り立て単元	考える練習タイム	継続的な話し合いタイム	
四	1 本に親しみ、自分と対話しよう 「カレーライス」 7時間 ねらい ○表現に即して登場人物の心情の変化を読み取り、自分の成長と重ねて自己を見つめる。 ○物語の表面からは見えない部分に光を当てて文章を書く。 学習計画 ①自分のこれまでの読書生活を振り返る。 ②学級全体の読書傾向について意見交流をし、この1年間の自分なりの読書計画を立てる。 ③教材を読み、主人公と自分の日常や成長と比べてみる。 ④主人公の心の成長を読み取り、考えを交流する。 ⑤主人公を取り巻く人々の関わりについて考える。 ⑥自分の好きな表現方法で創作活動をする。(続き話、似たテーマで違う物語、お父さんと上司との会話、日記等) ⑦自分の選んだ方法で、全体に発表する。(劇、コント、音読、文章化)	◇ 続けてみよう 2時間 ねらい ○この1年間どのような学びを作り出していくのか、学習の目的や意義を自覚する。 学習計画 ①1年間を通して自分の学習記録を残していくことに意欲をもち、計画を立てる。 ②話し合いは人間関係の上に成り立っているという認識をもち、国語教室の目当てを決める話し合いをする。	①自分の思いを主張する。 ○「最上級生として」どんな6年生になりたいかという自分の主張をはっきりさせる方法を身に付ける。 ②理由をはっきり述べる。 ○「あなたはどっち？」絵本「イヌのいいぶんネコのいいわけ」を使い、犬派と猫派に分かれて理由をはっきりさせて考えを述べる。	A二人組 Bグループ C学級全体 A ○ペアリーディング二人組で文章を読み、分からないことを質問したり、感想を述べ合ったりする。 ○二人で決定課題について話し合い、二人で合議して結果を述べる。 ○二人対論 二人で賛成と反対に分かれ、それぞれの言い分を出し合う。 ○説明する 一人が絵を見て説明し、もう一人がその説明を聞いて絵を描く。 ○資料で説明する 自分の見つけた資料を、文章にしないで言葉だけで説明する。 ○証明する 算数の図形	読み聞かせ ①教師や児童による読み聞かせを行う。そのあとシェアリングタイムをとる。 例「カレーライス」から重松清の本の読み聞かせ 「半パンデイズ」 ・ハードブックなので初めの部分を読み、続きを想像する話し合い。 その他の読み聞かせの本の例 ・にゃーご ・からすたろう ・あらしのよるに ・ぼくはくまのままでいたのに ・アルド・わたしだ けのともだち ・イチローへの手紙
	2 自分の考えをもち、筆者や友達と対話しよう 「生き物はつながりのなかに」 8時間 ねらい ○筆者が伝えたいことを文章の内容を的確に押さえながら読み取る。 ○読み取ったことを基に、筆者や友達と対話しながら生き物としての自分について考える。 学習計画 ①「生き物」「つながり」という言葉をグループでマッピングした後、全体で題名読みをする。 ②二人読みで文章を大まかに掴み、一人調べをする。 ③文章を自分なりに大掴みし、初読の感想を書く。 ④感想一覧表を元に学習問題を作り学習計画を立てる。 ⑤ロボットと本物の犬の違いを読み取り、考えを交流する。 ⑥人間の話が所々に入っている訳についてグループで話し合い、まとめる。 ⑦文章を要約し、自分の考えをまとめる。 ⑧お互いの文章を読んで、自分や周囲に対する見方についてフリートークをする。	特設 二人読みってどうするの? 1時間 ねらい ○二人で対話しながら読むことの意義を知り、練習する。 学習計画 ①モデル文を使って、ペアリーディングの練習をする。 特設 句会をしよう 2時間 ねらい ○句会の方法を知り、句会を楽しむ。 学習計画 ①全体で句会をしながら、句会を理解する。	③マッピング (多様な考えを生み出す拡散型思考) ○ある課題について個人やグループ学級全体で考えを広げてみる。拡散した考えをつないだり囲んだりして、新たな発見につながる。	○資料で説明する 自分が見つけた資料を、文章にしないで言葉だけで説明する。 ○証明する 算数の図形	

六	<p>のすばらしさを味わう。</p> <p>②俳句と短歌のどちらかを選び、自分の句を作る。</p> <p>◇「暮らしの中の言葉」 2時間</p> <p>ねらい</p> <p>○ことわざや四字熟語などを理解し、暮らしの中に根付いている言葉について関心をもって調べる。</p> <p>学習計画</p> <p>①ことわざや四字熟語などのリズムや口調のよさを楽しむ、自分の課題をもって調べる。</p> <p>②課題別グループで発表の準備をし、ポスターセッション形式で発表する。</p>	<p>②グループごとに句会をし、お互いの句のよさを認め合う。</p> <p>特設 ポスターセッションって何? 1時間</p> <p>ねらい</p> <p>○ポスターセッションの目的や方法を知る。</p> <p>①教師の説明を聞いて、よさや面白さを知る。</p>	<p>④ラベリング</p> <p>○思考の過程や結果をある言葉でまとめて考えを整理する。</p>	<p>問題（平行と垂直）を、図形を使って証明する。比を使った問題を、数を変えて証明する。</p>	<p>・アシュリーの記録</p> <p>・かたあしだちょうのエルフ</p> <p>・ぼくを探しに</p> <p>・葉っぱのフレディ</p> <p>・いちばん大切なもの</p> <p>・しろいうさぎとくろいうさぎ</p> <p>・老人</p> <p>・たまご</p> <p>・アンジュール</p> <p>・彼の手は語りつく</p> <p>・サーカスのライオン</p> <p>・星の王子様他</p>
	<p>3 相手や目的に合わせて書こう</p> <p>「ガイドブックを作ろう」「よりよい文章に」 11時間</p> <p>ねらい</p> <p>○読み手にとって必要な情報を選び、自分が伝えたいことをはっきりさせて効果的な文章を書く。</p> <p>○地図や図など、読み手に分かりやすくするための情報を取り出し、自分のガイドブックに効果的に活用する。</p> <p>学習計画</p> <p>①5年生のために、修学旅行のガイドブックを作ろうという目当てをもち、学習計画を立てる。</p> <p>②教材文を読み、自分のガイドブックには何を載せたいかをイメージする。</p> <p>③ガイドブックに必要な材料を集める。</p> <p>④集めた材料を整理し、自分のガイドブックに必要な物を選ぶ。</p> <p>⑤並べ方や分量など構成を考え、目次を作る。</p> <p>⑥～⑨項目ごとに割り付けを考えて文章を書く。</p> <p>⑩書いた文章を読み直して修正する。</p> <p>⑪ガイドブックを読み合って感想を交流したり、5年生に読んでもらったりして学習をまとめる。</p>	<p>◇ 学級討論会をしよう 6時間</p> <p>ねらい</p> <p>○賛成と反対の立場で意見を述べる討論会の方法を理解する。</p> <p>○対立する意見も公平に聞き、自分の考えだけでなく相手の考えも尊重して話し合いに進んで参加しようとする。</p> <p>学習計画</p> <p>①デバート形式の討論会について教材文やCDを使って理解する。</p> <p>②身近な話題から3つのテーマを選び、それぞれ賛成・反対グループを作る。</p> <p>③5人グループになり意見をまとめる。</p> <p>④～⑤3つのテーマごとに討論会を開き、残りの児童はフロアとして討論を観察する。</p> <p>⑥討論について、意見</p>	<p>⑤大きな視点でとらえる。</p> <p>○ある課題を小さな視点でとらえ、少しずつ大きな枠組みで考えを広げる。</p> <p>・「マイはし持参運動は効果があるか」</p> <p>自分→家族→お店→日本→社会→地球</p> <p>・「町内のごみ拾いは効果があるか」</p> <p>自分→家族→町内→市→日本→地球</p> <p>⑥視点を变える</p> <p>○「なぜ、働くの」</p>	<p>B</p> <p>○グループで選ぶ。</p> <p>いくつかの選択肢の中からグループで話し合っ一つに決める。</p> <p>○グループで多様な考えを認め合う。</p> <p>ある課題について解決の方法をグループで出し合い、それぞれのよさを認める。</p> <p>○個の考えを認め合う。</p> <p>ある命題に対してそれぞれが自分の考えをもつ。その考えに対して、それぞれが意見を述べ</p>	<p>②書くことによるコミュニケーションの活用</p> <p>○毎日の日記。帰りの会後、5分間で書いて帰る。教師は必ず一言コメントを書くようにした。日々の中に見つけた光る思いは学級通信に掲載した。</p> <p>○手紙</p> <p>誕生日の友達・兄弟学級の相手・学校内で関わりのあ</p>
	<p>4 ブックトークで読書の世界を深めよう</p> <p>「森へ」「本は友達」 12時間</p> <p>ねらい</p> <p>○自然と出会った体験や気に入った表現についての感想を進んで発表する。</p> <p>○相手や目的に応じた本を選び、紹介の仕方を工夫してブックトークの準備をする。</p> <p>学習計画</p> <p>①自分のこれまでの読書を振り返り、学級全体の読書の</p>	<p>⑥討論について、意見</p>			

七	<p>傾向をつかむ。</p> <p>②「森へ」を読み、新しいジャンルの読書について感想を出し合い、学習の目当てを決める。</p> <p>③～④「森へ」の構成や表現のすばらしさを発見し、筆者の心情の変化を読み取る。</p> <p>⑤筆者が伝えたいことを考え、グループで読書会を開く。</p> <p>⑥読書会の様子を聴き合い、新しいジャンルの本に挑戦してみるという目当てをもつ。</p> <p>⑦「本は友達」を参考にして、読んでみたい本のジャンルやテーマを出し合い、自分の読書を決める。</p> <p>⑧～⑨読みたい本のグループを作り、読書をする。</p> <p>⑩テーマをはっきりさせ、紹介の順番を決めてブックトークの準備をする。</p> <p>⑪ブックトークをする。</p> <p>⑫他のグループのブックトークを聞いて読みたくなった本を読み、学習をまとめる。</p>	<p>が的確か、相手を受け入れる言い方になっていたかに着目して感想を述べ、学習をまとめる。</p> <p>議題</p> <p>「友達は呼び捨てにしているか」</p> <p>「天気の良い日は外で遊ぶ」</p> <p>「小遣いを自由に使っているか」</p>	<p>「独立せよ、中学生」の寄稿者になって、中学生にメッセージを送る。</p> <p>⑦論理的な話し方の練習「サイコロトーク」</p> <p>○サイコロの目で出た接続詞を使って、話をつなぐ。</p> <p>・あるいは</p> <p>・そうは言っても</p> <p>・および</p> <p>・しかも</p> <p>・したがって</p> <p>・または</p> <p>・なお</p> <p>・それとも</p> <p>など</p>	<p>る。</p> <p>○いくつかの根拠を考える。</p> <p>グループで決めた主張に、いくつかの根拠を考える。</p> <p>○学級としての考えをまとめる収束型の話し合い。</p> <p>「係決め」</p> <p>「学級集会」</p> <p>「代表委員会の議題」</p> <p>C</p> <p>「学級で起きる諸問題」</p> <p>「グループ作り」</p> <p>「学年集会」</p> <p>「言葉遣いについて」</p> <p>「読書週間について」</p>	<p>読み聞かせの保護者・インタビューに答えてくれた人・見学をさせてもらった施設等</p> <p>○感想</p> <p>いろいろな行事の後に感想を書く。</p> <p>○学習のまとめ</p> <p>各教科の学習後、まとめを書く。</p> <p>○鉛筆対談</p> <p>あるテーマについて、二人で考えを書き合って交流する。(一方が発信して相手が続ける。双方が発信してお互いの考えに続ける。)</p>
九	<p>◇ 詩を味わおう「船／りんご」 3時間</p> <p>ねらい</p> <p>○詩の独特の表現や作者の発想の面白さを味わい、自分なりの感想をもつ。</p> <p>学習計画</p> <p>①自分の好きな詩を発表し、「船」の面白さを発見する。視写をして面白さが伝わるように音読する。</p> <p>②「りんご」という題名を抜いた詩を読んで題名を予想し、作者の「りんご」への思いを考える。</p> <p>③山之口獏や山村暮鳥の他の詩を読み、自分の好きな詩を音読する。</p>	<p>①「ひなたぼっこ」の方のブックトークをモデルにして、ブックトークの手順を学ぶ。</p> <p>②以前読み聞かせをした「命」についての3冊の本について、モデル学習をする。</p> <p>「わすれられないおくりもの」「葉っぱのフレディ」「命はみえるよ」</p>	<p>⑧自分たちの話し合いを振り返る</p> <p>○6の1話し合い録音記録を聞き、話し合いのルールを決める。決まったことはカードで掲示する。</p> <p>(例)</p> <p>・人の話の腰を折らない。</p> <p>・話をつないでいくためのメモの活用。</p> <p>・新たな考えを生み出す言葉。</p> <p>・どのような意見も受け入れる風土作り。</p> <p>・「本当にそうなのか」と立ち止ま</p>		<p>③心を開いて声を出す。</p> <p>○毎日の音読</p> <p>毎日一文を必ず音読する。</p> <p>○音読暗唱ブックによる「声の学習」</p> <p>○歌声</p> <p>帰りの会の歌</p>

5 共に考えるために伝えよう「みんなで生きる町」 13時間

ねらい

○ユニバーサルデザイ

十	<div>1 表現を味わい、豊かに想像しよう 「やまなし」「イーハトーヴの夢」 8時間</div> <div>ねらい</div> <div>○宮澤賢治の独特の表現の面白さに触れ、作品世界を想像する楽しさを味わいながら作品を読む。 ○宮澤賢治の生き方や考え方を知って他の作品を読み、賢治が作品を通して伝えたかったことを考える。</div> <div>学習計画</div> <div>①題名と最初の一文から想像できることを話し合い、この作品の特徴を考え、全文を読む。 ②自分なりの課題をもって、一人調べをする。 ③感想を交流し、学習の目当てを決め、計画を立てる。 ④「5月」と「12月」の情景を対比して詠む。 ⑤作者が伝えたかったことは何かについて考える。 ⑥「イーハトーヴの夢」を読み、作者の生涯について知る。 ⑦「イーハトーヴの夢」を読んで心に残ったことを、ペアリーディングで話し合う。 ⑧作者の生き方考え方を話し合い、「やまなし」という題名をつけた理由を考える。</div>	<div>ンという発想で、自分たちの町を見直す。 ○自分なりの課題を見つけて調べ、資料を活用して発信する。</div> <div>学習計画</div> <div>①ウェビングで題名読みをし、「みんなで生きる町」について考える。 ②考えを基に教材文を読み、学習の目当てを決め、計画を立てる。 ③～⑦ユニバーサルデザインの発想で公共施設や物を調べたり、インターネットで検索したりする。 ⑧調べたことをまとめ、テーマごとのグループで発表する。 ⑨主張をはっきりさせ、教材文を参考に提案文の組み立てを考える。 ⑩～⑫提案文を読み手に分かりやすく書く。 ⑬提案を読み合い、感想を交流する。</div>	<div>る。 ・納得できるまで聞き合う等。</div> <div>⑨話を具体的に にするエピソードを入れて</div> <div>○話を具体的に にするために、あるテーマについて自分のエピソードを入れながら話す。</div> <div>⑩説得力のある話し方「どちらの資料の方が適切？」</div> <div>○「ゲーム脳」に関する資料を用意し、どちらの方が相手を説得するかを考える。 ○相手によって資料を変えた方がいいことを考える。</div>	<div>「宮澤賢治ライブラリー」を作ろう</div> <div>ねらい</div> <div>○「やまなし」をきっかけにして、宮澤賢治の作品に数多く触れる。</div> <div>活動</div> <div>①自分が面白いと思った賢治の作品を持ち寄り、「宮澤賢治ライブラリー」を作る。 ②感想ポケットに得点を入れ、「賢治作品ベスト10」を決める。</div>	
十一	<div>2 「6年1組平和宣言を発信しよう」 「平和のとりでを築く」「自分の考えを発信しよう」 「インターネットと学習」 15時間</div> <div>ねらい</div> <div>○題名が意味することに注意して、筆者や友達と対話をしながら読みを深め、自分の考えをまとめる。 ○自分のテーマに即して資料を選び、材料を選び直したり、効果的な組み立てを考えたりして、平和宣言を書く。</div> <div>学習計画</div> <div>①題名読みをし、読みの構えを作る。 ②全文を読み、感想を書く。 ③感想を交流し、学習の目当てを決め、計画を立てる。 ④全文を一人調べし、ペアリーディングで読み深める。 ⑤「原爆ドーム」になった論理を読み取る。 ⑥「世界遺産」に登録された論理を読み取る。 ⑦要旨をまとめ、「平和のとりでを築く」とはどういうことなのかについて意見を交流する。 ⑧「平和宣言」の仮の要旨をまとめる。 ⑨～⑩自分の宣言に必要な材料を集め、メモを取る。 ⑪要旨をまとめ直す。 ⑫～⑬文章構成を考え、下書きをする。 ⑭推敲した文章を清書する。 ⑮「6年1組平和宣言」をパネルディスカッションで発信し、学習をまとめる。</div>	<div>パネルディスカッションって何？ 2時間</div> <div>ねらい</div> <div>○パネルディスカッションについて知り、その活動を意欲的にする。</div> <div>学習計画</div> <div>①パネルディスカッションの簡単なシナリオを使って、方法を知る。 ②簡単なテーマで試してみる。</div>		<div>Cみんなで話し合おう「学校のためにできること」</div> <div>ねらい</div> <div>○卒業に向けて、今自分たちに何ができるかを話し合う。</div> <div>議題</div> <div>「あいさつ運動について」 「校舎内をきれいにしよう」 「花をいっぱいに咲かせよう」 「下級生と仲良くしよう」</div>	

十二	<p>◇ 表現を工夫して、感動を言葉にしよう 4時間</p> <p>ねらい</p> <p>○身の回りの生活で感動したことを見つけ、自分の思いを効果的な表現で書く。</p> <p>学習計画</p> <p>①日常生活から感動したことを見つけ、自由に書いてみる。</p> <p>②教材の5つの詩を読み、工夫された表現を見つける。</p> <p>③集材ノートの中から詩のタネを選び、表現を工夫して簡潔に書く。</p> <p>④友達と交換して読み、アドバイスをもらって自分の表現を工夫する。</p>				
一	<p>3 言葉っておもしろいな 「わたしたちの言葉」 10時間</p> <p>ねらい</p> <p>○6年間の小学校生活で、言葉をめぐって考えたことを思い出したり、新しく調べたりして言葉について考えたことを書く。</p> <p>○意図がよく伝わるように、具体例を示しながら話したり、話し手の意図をとらえながら聞いたりする。</p> <p>学習計画</p> <p>①言葉の難しさや面白さを感じた経験を思い出し、単元の目当てを決め、学習計画を立てる。</p> <p>②「おかしい」の言葉の多義性に気づき、例文を考える。</p> <p>③助詞の「に」「で」を使った文を考え、助詞の決まりや意味の違いを理解する。</p> <p>④生活の中の「あいさつ言葉」について意味や思いを調べる。</p> <p>⑤「言葉調べ」について、グループで話し合う。</p> <p>⑥～⑦グループで決めた「言葉」について調べる。</p> <p>⑧調べたことをカードにまとめる。</p> <p>⑨資料「言葉の橋」を読んで、言葉のもつ力や大切さ、難しさについて考える。</p> <p>⑩「言葉調べ」カードをまとめ、紹介する。</p>	<p>◇ 十二歳の主張をしよう 「ぼく、わたしの未来予想図」 6時間</p> <p>ねらい</p> <p>○小学校生活をふりかえって思うことや未来の夢などを考え、20歳の自分に手紙を書く。</p> <p>学習計画</p> <p>①未来予想図を書くことについて考える。</p> <p>②12歳までを振り返る。</p> <p>③中学校生活に夢を持つ</p> <p>④高校生活に夢を持つ。</p> <p>⑤将来に夢を持つ。</p> <p>⑥自分の未来予想図を完成させる</p> <p>⑦自分の未来についてスピーチをし、感想を交流する。</p>	<p>⑪視点を広げて予測する 「世界はこれからどうなるか」</p> <p>ねらい</p> <p>○自分の未来を予測することで変化していく考え方を学ぶ。</p> <p>方法</p> <p>○自分、自分の住む地域、日本、世界という場の縦軸と今週、来週、来年、生きている間という時間の横軸に自分の予測を書き込み、話し合う。(「ワールド・スタディーズ」より)</p>		<p>お世話になった先生や友達、家族に「ありがとう」を伝えよう</p> <p>ねらい</p> <p>○自分の成長を振り返り、これまでお世話になった人々に「ありがとう」の気持ちを込めた手紙を書く。</p> <p>活動</p> <p>①「ありがとう」のエピソードを思い出す。</p> <p>②エピソードを入れた手紙を書く。</p>
二	<p>◇ 学習したことを生かして 12時間</p> <p>「海のいのち」「今、君たちに伝えたいこと」「生きる」</p> <p>ねらい</p> <p>○1年間の国語の学習を振り返り、これまで身に付けてきた国語の力を発揮して、自分の力で学習を進める。</p> <p>○優れた叙述を味わいながら読み、読み取ったことを基に自分の思いや考えを表現する。</p> <p>①「学習したことを生かして」を読み、これまで身に付けてきた国語の力について話し合う。</p> <p>②3つの作品を読み、自分の学習の目当てを決め、計画を立てる。</p> <p>③個人のめあてと計画を報告し、学級としての学習の最後のまとめ方を話し合う。</p> <p>④～⑦自分の決めた方法で学習を進める。</p> <p>⑧学習の進み具合を報告する中間発表会を開く。</p> <p>⑨友達との意見交流を基に、自分のまとめ方の修正をする。</p> <p>⑩発表会の準備をする。</p> <p>⑪卒業の思いを込めた発表会を開き、感想を交流する。</p> <p>⑫学習を振り返り、1年間の国語の学習のまとめをする。</p>				

7 話し合い活動の分析

7. 1 分析データ

6年時1年間(2009)に行われた話し合い活動のうち次の3つの記録を分析した。

・データ1

実施時期：6月下旬(全6時間)

話し合いの内容：学級討論会の議題について同じ意見の者同士で意見をまとめる。

単元のねらいと概要：3つのテーマについて肯定グループと否定グループを作る。(4から6人グループ)肯定グループに振り分けられた児童たちは肯定意見を補強する理由を出し合いまとめる話し合いを行う。(否定グループも同様)。6グループ10分程度の話し合い。

テーマ：「友だちは呼び捨てにしていいいか」肯定グループ・否定グループ

「天気の良い日は外で遊ぶ」肯定グループ・否定グループ

「小遣いを自由に使っていいいか」肯定グループ・否定グループ

・データ2

実施時期：1月下旬(全10時間)

話し合いの内容：単元「言葉調べ」をするにあたって、何をしたらいいか作業手順を確かめる。

単元のねらいと概要：言葉について調べる内容をグループで決めて発表する。その学習の過程で、新聞作りを例に、グループ新聞を作るために何を話し合ったらいいいかを出し合うという話し合いについての取り立て学習を挟んだあと、言葉に関して何を調べるかをグループで話し合う。8グループ10分程度の話し合い。

・データ3

実施時期：3月上旬(全3時間)

話し合いの内容：子どもに携帯電話を持たせてよいかについて4つの立場から意見を出し合う。

単元のねらいと概要：子どもに携帯電話を持たせてよいかについて、保護者、教師、子ども、携帯会社の社員という4つの仮想立場に立ち、司会を立てて協議する中で、テーマについての考えをほりさげる話し合いを行う。6グループ10分程度の話し合い。

7. 2 分析の枠組みと方法

児童の発話の機能と発話展開を分析するコーディングの枠組みは以下の通りである。^{*1} ICレコーダーを使用してグループの話し合い時の音声采取了。文字おこしは稲田教諭が行い、コーディングは山元が行ったあと稲田が確認し、コーディングが一致しない発話に関しては協議の上決定した。

^{*1} 分析の枠組みは、注1の論文で用いたものと同様である。

表1 児童発話のコーディングカテゴリー

カテゴリー：カテゴリーの定義	発話例（子どもに携帯を持たせてよいかについての話し合いデータより）
1 主張 意見：自分の意見を述べる。 根拠：自分の意見の根拠を述べる。 意見の変更・再説明：人の意見から自分の意見を見直し、主張したり修正したり改めて説明したりする。	・約束を親と決めて使うことが大事なんだと思います。 ・携帯会社の立場からいうと、連絡を取るだけでなく子どもがどこにいるかを知ることもできるし、役に立ちます。だから賛成です。 ・私は自分が持ってるから、持つことに賛成なんだけど・・・なんか聞いてたら怖いことも出てきて、持つのも少し怖いかなと思う気持ちも出てきた。でも無いと困るし、なんかちょっと揺れてるところもあります。
2 累積的発話 繰り返し：相手発話を繰り返して確認したり、自説としたりする。 協応：相手と共話しながら一つの考えを参加者相互で作っていく。 触発想起：相手発話を聞くうちに思いついたことを言う。 言い換え：相手発話を別の表現にしたり自分の理解で言い換える。 精緻化：相手発話の内容について賛成する根拠を出したり、更に具体事例を挙げるなどして、内容を鮮明なものにする。 不足付加：相手発話の不足情報を明示的に付加する。 富化：相手発話の内容を発展させてアイデアを広げたり、価値づけたりする。	・安全面からですか。 そうそう・・・。 <u>便利の上に安全。</u> ・そしたらさ、それができんように、そんなにお金使わんでいいように・・・親とかが・・・決めとったらいんやないん。 ・うんあ。さっきさあ・・・、Dさんが、携帯電話を持っていると、どこにいるか分かるから安全ちいうのが出とったやん。それは携帯電話会社の工夫したことだと思います。それがあるから、子どもに持たせる親も多いと思う。誘拐とかされたときにどこにいるか分かったら、探しやすい。 ・そしたら問題が起きたら仕方ないということですか。 ・さっき出たいつでも、どこでも電話できるというのは、携帯電話のいいところというか・・・利点だと思います。でも、それが裏目に出て、してはいけないところ・・・例えば乗り物の中とか、映画館の中とかでも使ってしまう・・・や、自分に使う気持が無くても相手から、鳴ってしまうなどがあります。 ・でもそれって、ゲームだけじゃないと思います。他のいろんなところにつないだりしたら・・・そのたびにお金がかかる仕組みになってると思います。 ・それなら年で考えたらどうかね。小さい子はがまんができんし、高学年になったら親としっかり話し合って使うとか・・・。
3 探索的発話 確認：相手発話の内容を確認する。 疑問：相手発話について質問する。 賛意：賛意のあいづち、うなづき、直接の賛意の言葉（それいいね）等で賛意を示す。 反論：相手の意見について反対の意思表示をしたり、反論したりする。 自説と関連づける：相手発話内容を自分の意見と結びつけて述べる。 新たな視点の提出：新しい考え方を場に提供する。 内容の整理・組織化：意見の似ている所を指摘したり、差異化・統合しようとする。	・ただ、Bさんと少し違うのは、学校に持ってくるのは必要ないということです。/ <u>では、家では持っていていいということですか。</u> ・ほんと？知らなかった。それって怖いこと？ ・〇君いいことに気がつきましたね。そういわれればそんな感じみたいです。 ・子どもやけ約束を守らんとか・・・は、分からんと思う。もし、俺らがみんな持ったら、みんなが全部勝手な使い方をするとか思えんし・・・。やってみらんとわからんやろ。 ・私も反対なんだけど、・・・使い方を厳しくできるなら、子どもにそれがわかって守れるなら、持たせてもいいかなと思う気持ちも出てきました。 ・それはそうだと思う。仮定でいってはいけない・・・どうなるか分からないから、それは確かなことではというか、確かなこととして話すことはできませんね。だから使い方の問題として考えていくことだと思います。 ・反対も5個やん。ちょうどいいねえ。でも、なんかさあ・・・。賛成は電話のことが多くねえ、そいで反対はメールのことが多いような・・・。
4 話し合いについてのメタ意識が見られる発話 参加の促し：場に加わっていないものに参加を呼びかける。	・〇〇さんはどうですか

<p>発言要求：発言を求める。</p> <p>5 話し合いの流れをモニターする発言</p> <p>手順意識：話し合い方について意識した発言をする。</p> <p>目的意識：話し合いの内容がテーマからの逸脱しないよう管理する。</p> <p>整理・結論づけ：結論に向けて内容を整理しようとする。</p>	<p>・○○君まとめて……。なんて言ったらいいかわからん。</p> <p>・まず、自分の立場から思ったことを話してください。</p> <p>・うん。これっち、どうまとめたらいんかね。なんか、おれわからんくなった。小学生に持たせるか持たせんかを決めるんかね。</p> <p>・ふざけるのはやめて……。えっとここまでをまとめます。便利さと安全面から両方の考えが出ましたが、他のことからありませんか。</p>
--	---

7. 3 分析の結果

3つのデータのそれぞれに現れた特徴的な様相を指摘したい。なお、事例に掲載した発言の最後に記した記号（4-整理）は、コーディングカテゴリーの番号と内容を示している。また、「……」は、発言間の間を示している。

・データ1（6月採取）

このデータでは、2-協応、2-富化、2-触発想起、2-精緻化等の累積的会話が展開していることが特徴である。累積的な会話のうち「協応」は小学2年生の話し合いにも現れ始めていたもので、参加者が共話していく展開を見せる。事例1に見られるように、他者の意見について同じ内容を別の言葉で言い換えたり、意見を発展させたり（発言26から28、発言33から34）、具体的にイメージを展開したり（発言33）、同意しながら根拠が足されていく（発言36）。

このように他者の意見を聞き、受け入れて自分の意見を作っていく累積的な話し合いの様相がどのグループにも見られたが、論理的に探究する展開は見られない。これは、同じ肯定意見をグループで作り上げるといふ場の設定が反映していると考えられる。同じ立場に立つ者同士が意見を補強し、共創していく話し合いだったので、相手の意見を吟味しながら批判的に追究していく構えをとりにくかったのであろう。しかし、このような同じ意見の者同士が集まり、他者の意見を自分の中に受け入れながら考えを深めたり展開していくタイプの話し合いは、話し合いの土台となる協同性を培う上では望ましいものであった。

事例1「友だちは呼びすてにしていいか」肯定グループ A:FS B:AN C:TY D:IT E:TY F:HS

発話者	発話内容
19A	じゃあ、稲永さん。1-発言要求
20D	呼びすての方が、友達みたいな気がする。友達で呼び合うみたい。1-意見
21A	何か意見ありますか。1-発言要求
22B	そう言われると……。1-意見
23A	友達……。2-繰り返し
24F	呼びすて？ 2-繰り返し
25A	もう一回言って。4-発言要求
26D	友達で呼び合うのもいいと言うこと。1-意見変更再説明
27A	友達だから呼び合った方が、2-協応
28D	いい。2-協応
29A	親しみやすい？ 2-富化
30C	そうそうそう。3-賛意
31F	親しみ。2-繰り返し
32A C D	親しみやすい。2-繰り返し
33C	いや、お互い君とかさんとか付け合いよったら、なんかね……。2-精緻化
34D	ぎくしゃくする？ 2-協応

- 35 C うん。 3-賛意
 36 F 何か変？。 2-言い換え
 37 A 何か変ではないけど。 3-反論
 38 F 年上の人？ 2-触発想起
 39 A 年上の人とか・・・。 2-繰り返し
 40 C そう。目上の。 3-賛意
 41 A 目上の人に言ってる感じがするけ、あの呼びすてした方がいいと思う。 2-協応
 42 B そうやね。 3-賛意
 43 C いいと思う。 3-賛意

・データ 2（1月採取）

このデータは、単元「わたしたちの言葉」という国語学習の中に、話し合いについての取り立て学習を挟み込んで実施したあとの話し合いを採取したものである。どのグループも次のような展開をたどっている。

- (1) 話し合いについてのメタ意識が見られる発言（全グループとも司会児童の「どんなことについて話し合えばいいか」からスタートしている。） 事例 2 中の発話 1。
 (2) 意見を出す。（「何を調べるか」を話し合うという意見が全グループも始めに出される。） 事例 2 中発話 2。
 (3) 意見の整理とまとめ。次の発言要求。 事例 2 中発話 9

この展開が数回繰り返され、その結果話し合うべき内容として、何を調べるか、調べる方法、調べる分担、発表の仕方の 4 つが提案されている。

このような整然とした話し合い展開をどのグループも見せたのは、この話し合いの前に行われた話し合いについての取り立て学習の効果が現れたためだと考えられる。その取り立て学習の内容は次のようなものであった。

- ①話し合いの流れが行きつ戻りつしている話し合いビデオを見せる。ビデオは本学級児童の話し合いを撮影したものをを用いた。
- ②話し合いが進まない原因を考え、手順を決めてから話し合う必要性を理解する。
- ③係活動を決める時に、何を話し合えばいいか一斉形態で出し合い、課題を小分けにして分析的に整理した表を板書上で作り上げて示す。
- ④グループ新聞を作るときに、何を決めたらいいかをグループで話し合う。そこではテーマ、記事内容、レイアウト、分担等が出された。

児童はこの学習経験を生かし、③の学習時に板書で教えられた表にまとめる方法を、グループに一つ用意されたホワイトボードを使って活用しながら話し合っていたのである。このような、課題をこなすための作業手順を決めるようなタイプの話し合いは、一斉学習で一度体験させておけば、グループでも容易に遂行できることが明らかになった。また、ホワイトボードを用意して、表化しながら課題を小分けにして捉え、意見を可視化していくツールの提供も効果的であったと考えられる。

事例 2 「言葉調べ」をするにあたって何を話し合えばいいかを話し合う 4 班 A : SR B : WM C : KY D : ST

発話者	発話内容
1 A	今から言葉について調べることを話し合います。まずはどんなことについて話し合えばいいですか。 4-手順
2 B	何について調べるかを話し合ったらいいと思います。1-意見
3 A	どうですか。4-発言要求
4 C	いいです。その方が話し合いがスムーズに進むから。1-根拠
5 A	D 君はどうですか。4-発言要求
6 D	いいです。3-賛意
7 A	わたしもそっちの方が、一人一人何について調べるかが分かりやすいからです。1-根拠

- 8 A それでいいですか。 4-整理
全 いいです。 3-賛意
- 9 A 次は何について話し合えばいいですか。 4-手順
- 10 B どうやって調べるか、調べる方法を話し合えばいいと思います。 1-意見
- 11 C ぼくは、発表のしかたがいいと思います。 1-意見
- 12 A 調べる方法と発表のしかたについて話し合いますか。 4-整理
全 はい。 3-賛意
- 13 A じゃあ、どっちを先に話し合えばいいですか。 4-手順
- 14 D 調べる方法を話し合えばいいと思います。先に調べる方法を話し合った方がまとめやすいです。
1-意見 1-根拠
- 15 C 先に方法を話し合った方が、進みやすいからです。 2-協応
- 16 A スムーズにね。 2-協応
- 17 A 他に話し合うことはありませんか。 4-整理
- 18 D 発表の順序がいます。 1-意見
- 19 B それは発表のしかただと思います。 2-言い換え
- 20 A 分担がいます。 3-意見
- 21 C 分担って何。 3-疑問
- 22 A 調べる内容の中で、誰が何を調べるかということです。 1-意見変更再説明
- 23 A それを入れていいですか。 4-整理
- 24 B いいです。 3-賛意
全 はい。 3-賛意
- 25 A 話し合うことを確認します。まずは、何を調べるかで、次はどうやって調べるかという方法で、次は発表の分担でいいですか。 4-整理
- 26 B 分担の方が先がいいと思います。 1-意見
- 27 A どうしてですか。 3-疑問
- 28 B 分担が先に決まった方がやる気になるんじゃないかと思うからです。 1-根拠
- 29 C それもそうやね。何か見えてくるって感じ? 2-触発想起
- 30 A D君は? 4-参加の促し
- 31 D うん。いいよ。 3-賛意
- 32 A 分担を先にするでいいですか。 4-整理
全員 はい。 3-同意
- 33 A じゃあ3番目が分担で、4番目が発表のしかたです。 4-整理

・データ3（3月採取）

このデータは、高学年で目指したい指標としていた論理的探究が数例見られる点が特徴である。事情により6グループ中3つのグループのデータしか分析できなかったが、探索的展開を見せる話段が3例現れている。児童には前時に「小6の携帯メール頻度と就寝時間について」示したグラフが載せられているワークシートが与えられており、グラフから分かることと、それから考えたことをあらかじめ書いている。また、携帯所持について賛成・反対の立場を決め、理由を考えるワークシートに書き込んだ後話し合いに臨んでいる。

事例3、4に示しているA～Eは児童に割り当てられた立場を示し、保護者（A）と教師（B）は持たせるべきではないという立場、子ども（C）との携帯会社社員（D）は持たせてよいという立場である。全3時間の学習であり、多面的な立場から物事を捉える思考様式を学習することがねらいであった。

探索的な展開があらわれる契機は、発話76のような論点整理の発言が現れたり、発話80のような一つの事象を逆の面から捉え直し、新たな視点を提供する意見や、発話82・85のような「使う人の問題」「使い方の問題」という言葉で、より高次の捉えを提供する発言が現れたときである。

また、事例4発話のように、前時に提供された携帯メール頻度と就寝時間に関する統計資料を手がかりに

反論が生み出されることもある。

しかし、データ3のもう一つの特徴として、児童は実生活の自分の立場—例えば自分は子どもで携帯を持っている—から離れづらく、夢中になってくると仮想の立場を離れて実生活の立場で発言してしまう発話もしばしば見られた。また、経験からくる生活論理が児童にはあり、その次元でものを考え、判断しているところも見受けられた。例えば事例5の発話81のようなものである。この児童は、子どもだからという理由で禁止するという考え方に反発を抱いており、具体的な場合分けをしながら考えを作っている。このような、これまでの生活経験から抱いている主観的論理と日常に密着した発想から1歩ひいて、誰もが納得するパブリックな論理で物事を考え、伝えようとする姿勢を養うことが必要である。

事例3 子どもに携帯電話を持たせてよいか 2班 司会A:H 保護者B:EH 教師C:NH 子どもD:KH 携帯会社社員E:TY)

発話者	発話内容
76 A	反対も5こやん。ちょうどいいねえ。でも、なんかさあ……。賛成は電話のことが多くてねえ、それで反対はメールのことが多いような……。 3-内容整理
77 C	A君、いいことに気がつきましたね。そう言われればそんな感じみたいです……。 3-賛意
78 A	おれ、ひでっちにほめられた……。 (笑い)。じゃあ、そのふたつで賛成、反対で話し合おうか。 4-手順
全員	いいと思います。 3-賛意
79 A	では、電話について意見を言ってください。 4-発言要求
80 C	さっき出たいつでも、どこでも電話できるというのは、携帯電話のいいところというか……。利点だと思います。でも、それが裏目に出て、してはいけないところ……。例えば乗り物の中とか、映画館の中とかでも使ってしまう……。や、自分に使う気持ちがなくても相手から、鳴ってしまうなどがあります。 3-新たな視点
81 D	でも、それって子どもだけの問題じゃないよ……。大人だって電車の中で大きな声で話してる人いるよ。 3-反論
82 B	それはそうだと思います。使う人の問題なんだけど、子どもの方が約束を守りにくくて、持たせたら……。どこでも使うかもしれない? 2-精緻化
83 A	そんなこともないと思う。司会やけど言っていていいかね。 3-反論
全員	はい。 3-賛意
84 A	子どもやけ約束を守らんとか……。は、分かんらと思う。もし、おれらがみんな持ったら、みんなが全部、勝手な使い方をするとか思えんし……。やってみらんとわからんやろ。 3-反論
85 C	それはそうだと思う。仮定で言っではいけない……。どうなるかわからないから、それは確かなことではというか、確かなこととして話すことはできませんね。だから、使い方の問題として考えていくことだと思います。 3-新たな視点

事例4 子どもに携帯電話を持たせてよいか 3班 司会A:HS 保護者B:FH 教師C:NA 子どもD:TN 携帯会社社員E:UY

発話者	発話内容
19 A	えっと、BさんとCさんが反対してて……。反対する理由は、Bさんは、携帯電話にはまってしまって、メールとか……。ゲームとかするということで……。Cさんも反対で、それは……。携帯電話で嫌なことがあるということで……。それだから、二人は反対しています。 4-整理
20 C	付け加えがあります。もう一つの資料で、メールをする回数と寝る時間の表がありました。Bさんのいつも携帯電話にはまってしまうということに付け加えになると思うんだけど……。携帯をもっていてメールをする人より、携帯を持っていない人の方が寝るのが早いのでいいと思いました。メールをする量が多いと寝る時間がその分遅くなっています。 1-意見
21 B	そうそう、うちもそれを言いたかったんよ。携帯を持っている人は11時過ぎに寝る人が多くて……

- 半分以上います。そして・・・携帯を持っていない人は、11時までに寝てる人が半分以上ぐらいいます。携帯を持っている人の方が寝るのが遅いと・・・思う。んやないかねえ・・・。2-言い換え
- 22E でも、それって・・・。メールをするかしないかで寝る時間も違うということだと思います。だって・・・30通以上する人は・・・確かに11時過ぎに寝る人が半分以上おるけど、30通もしない人は・・・11時までに寝る人が半分以上います。と、いうか・・・。30通もしない人と、携帯を持っとらん人の寝る時間で、あんまり変わりはないと思います。携帯持っても、たくさんメールをするかしないかで、寝る時間は違うから・・・。携帯を持ってるから悪いというのでは違うと思います。3-反論

事例5 子どもに携帯電話を持たせてよいか 3班 司会A:HS 保護者B:FH 教師C:NA 子どもD:TN 携帯会社社員E:UY

発話者	発話内容
80A	子ども（役）のD君はどうですか？
81D	ぼくとしては・・・。今持ってないし、ないでもいいんやけど。反対されるのは嫌やし、というか・・・子どもやけ・・・だめっち・・・決めつけられるのはちょっとむかつく。欲しい人は買ってもらえればいいし、親が買わんと言うんやったら、家で子どもとちゃんと話せばいい。電話がある家もあるんやけ。それで・・・困ることがいっぱい出とったけど、それは家でちゃんと約束して・・・、だめやったら、取り上げるとか決めたらいいやん。メールとかめんどくさそうやけど、ゲームとかしてみたい。あー、でも、金かかるんやったけ・・・。

8 総合考察 ―論理的探究が展開する話し合い実現に向けて―

話し合い記録を分析した結果、6年生の学級では、累積的会話や協応的な話し合い展開はデータ1（6月）の記録でも多く観察できることが明らかになった。

また、データ2（1月）の「言葉調べをするときに何を話し合えばいいか」というような手順を決める話し合いは、学習をすればどのグループでもできることも判明した。しかし、探究的な展開を見せる話し合いについてはデータ3（3月）においては3例観察できる程度にとどまった。分析データ数の少なさもあるが、場に出された異なる立場の意見を賛成反対にわけて整理することはできたが、そこから論点を整理して話し合いをさらに進めていったり、一般化して束ねたりする発言は、1・2例であった。

この結果及び実践の経過から次のような指導のポイントが導出される。

- (1)協同性を大切にした論理的探究型話し合いを遂行できる児童というのは、相手の意見を自分の中に取り込みながら自分の意見を発展的に展開させていける児童である。そのためには、①核となる自己をはっきり持たせることと、②納得がいくまで考えようとする指向性を育てることが、思考様式をスキルとして学習させることの土台に必要である。
- (2)特設時間（「考える練習タイム」）を設けて論理的思考様式の指導を行ったが、中でも、話し合い活動をメタ認知する「モニタリング」活動の習練がさらに必要であった。例えば、出された意見の中から論点を発見して整理し、話し合いをどう進めていくかをシュミレーションするような学習である。学んだ論理的思考様式を話し合いの場でどう発揮させたいか、その間を繋ぐ運用力を育てる習熟学習が必要である。
- (3)論理的探究は一斉学習において探究活動を体験した後、グループや個の内面で自律的に行えるよう促すという習得過程を踏む必要がある。意図的明示的な一斉学習のあとその学習を生かして個人内で探究活動が展開される機会を設ける。この二つが相補的に行われることで、児童たち自身が自律的に個人で、そしてグループで論理的探究を行えるようになると考えられる。例えば、相手の考えの良さを明確に掴ませる、それについての自分の考えをじっくり持たせる、それを出し合うという思考ステップをまず一

斉学習で丁寧に体験させることから始めるのである。

- (4)内面での論理的探究やグループでの探索的会話を進めるためには、書くことを活用したツールが手助けとなる。例えばホワイトボード、カード、マップ、表、フローチャートなど。これらを用いて思考の可視化と思考様式のツール化をはかることが有効である。書きながら考えることを促していきたい。
- (5)論理的探究活動そのものを指導する場合は、課題に関する情報（例えば携帯メールの使用頻度と就寝時間の関係を示す資料）の意図的提供をすることが必要であり、有効である。また、課題そのものが生活に密着した、考えを持ちやすいものであることも必要である。メンバーに持たせる情報の多様性の面は保障し、その面での負荷を少なくしておくのが望ましい。
- (6)児童の生活の中に、論理的に考えることを価値あるものと見なす文化を育てなくてはならない。児童が筋道立てて考えることの必要性や値打ちを感じない場合はそのような考え方をしようとはしないし、ましてや定着はしない。そのためには、論理的探究を行う必然性がある場を学校生活や学習全般の場に用意し、実生活での有用感を感じさせつつ習熟させることもカリキュラムデザイン上で欠かせない視点である。

9 成果と課題 ―話し合い能力の成長を見取る尺度と、成長を促すてだての提案―

成果 本研究の当初に設定した高学年の話し合いの到達指標は「組織型話し合い」である。稲田氏は一年間の指導の成果を次のように指摘している。「一部の児童の意見で決まってしまう話し合いの状態、話し合っただけでなんになるのかという否定的な価値観を持った児童、力はあるのにどうでもいいじゃないかと投げやりだった児童たちが、話し合うことは大切でやりがいがあるという感覚を持ち始め、話し合いというコミュニケーションの価値を根幹のところで理解してくれたことが成果である」。話し合いの指導は、どの学年においても価値の体験的把握から始まり、それを土台として積み上げていくものなのであろう。

一年間の指導を通じて、コミュニケーションの価値や意義を実感し、他者と協同的な関係を保ちながら累積的な話し合いを行う姿が観察できるようになったことは成果である。しかし、もっと進めた組織型話し合い展開をみせた事例はデータ資料で見る限り少なかった。

しかし、個々の児童がそれぞれに成長する姿から、表4のような成長尺度を導き出すことができた。この階梯を登らせるための指導の手立てに関する方針と具体的方法を構想し、実施することができたのは本研究の成果である。

この表は、児童の成長段階を見取る尺度を示しており、一年間の実践を通して稲田学級の児童が見せた変容の姿から帰納的に作成したものである。また、表中にはレベルを上げるための指導の手立ての方針と具体的方法を示している。表右には、観察できた個々の児童の変容を掲載した。

この表では、場に参加することをまず始めに促し、ついで自分という核を持ちながら他者との関係性を結んでいき、筋道を立てて論理的に考えを作り伝え、レベル5では協同しながら探索的に話し合えるようになるという段階を措定している。この尺度を児童の実態を見取る指標として活用し、一人一人の成長をはかり、記録するツールとすることもできよう。

表 4

見られる姿	指導の手だて	当該レベルにある児童の変容
レベル1（協同性） <ul style="list-style-type: none"> 自分を表現する習慣が生活に少ないので話そうとしない 考えるのを面倒がっている 学習や取り組む内容に対して意欲がわからない 	レベル1 <ul style="list-style-type: none"> 自由に話しても良い学習の場を設ける <ミニ討論会・シェアリングタイム> 自分の考えを出すこと 	レベル1 <ul style="list-style-type: none"> 攻撃的あるいは無気力な姿が見られることが多かったが、語調がおだやかになってきた。 話し合っても何にもならない(学級の人間関係がそうさせていた)と思っていた児童を、必ず発言しなければならない場に置いたり、自分たちで

成長段階		<p>の楽しさを体験させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の生活や問題意識に密着した話題で話し合う機会を設ける ・自分の考えを持たせる 	<p>話題を決めさせたりすることで、自分の発言に責任を持とうとする気持ちが生まれてきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どう話し合えばいいかが分からず活動に参加しない児童が、話し合いのモデルにより話し合い方を身に付けられるようになってきた。が、型から発展するまでには到っていない。 ・面倒だ、やる気にならないと思っていた児童が、身近な話題や関心のある話題で話し合いの数を増やすことにより、自分から進んで司会をするようになった。(進行の仕方はグループの他のメンバーに助けられるという場面は多いが。)
	<p>レベル 2 (自己ベクトル)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲を持ち、場に参加して発言しようとしている ・自分の考えを頭の中で整理して発言できるが、他者への配慮意識が薄く、言いたいことを言ってしまう 	<p>レベル 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを持たせる ＜意思表示のためのホワイトボード＞ 	<p>レベル 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の発言が第一であった児童が、お互いの意見を聞き合うという場を経験し、それに対する感想や考えを言う中で、お互いの考えを認められるようになってきた。 ・全体の思いや考えを一覧にしたり、ホワイトボードで黒板に掲示したりすることで、考えの共通点や相違点について発言できるようになった。多様な考えを受け入れ、認められるようになってきた。
	<p>レベル 3 (他者ベクトル)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の意見を自分の中に取り込んで自分の考えを発展させている 	<p>レベル 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の意見を受けとめる ・多様な考えを認める 	<p>レベル 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の考えのよさをはっきりさせ、それについて自分はどう思うのかを書かせることにより、他者の意見を自分の中に取り込んで考えられるようになってきた。その過程がないと、安易に考えをまとめてしまいがちなところは残る。その場を必然的に作ることが段階的に必要である。 ・話し合いの中で、時折他者の考えに付け加えたり、それを受けて考えを広げたりできるようになってきた。
	<p>レベル 4 (課題追求ベクトル)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを筋を通して伝えようとしている 4－1 自分の中にある主観的価値判断や生活論理で考えている 4－2 パブリックな論理で考え、それを使って伝えようとしている 例：主張－理由－根拠－一般化等 	<p>レベル 4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の論理、パブリックな論理の区別意識を育てる ・論理的探究のための思考様式を獲得させる 	<p>レベル 4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的な考え方を身に付けさせる取り組みにより、自分なりの論理をはっきりさせて主張しようとするようになった。自分にとって身近な問題になると、自分の論理だけで考えようとするので、さらに大きな立場で物事をとらえる考え方ができるようになる指導が必要である。 ・話し合いの目的をはっきり意識し、どういう方向で話し合えばいいかが自覚できるようになってきた。違う視点で考えたり、友達の考えを言い換えたりできるようになってきた。自分自身の話し合い方をメタ認知し、よい話し合い方をしようとする意欲をもっている。
	<p>レベル 5 (状況ベクトル)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの場や目的や流れを意識し、メンバーとの意見のやりとりの中で協同して問題を探究しようとしている 	<p>レベル 5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的探究を行うための話し合いの進め方を学習する ・意見の違いを整理し論点を明確にしながらそれについて進めていく学習 ・話し合いのゴールを意識して展開していく習慣を付ける 	<p>レベル 5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いのゴールを常にイメージし、話し合いの流れを修正したり、話し合い方について意見を言ったりすることができる。 ・司会の立場では、出た意見を整理したり、方向を修正したり、友達の発言にアドバイスしたりできる。 ・おだやかな発言で、みんなに話し合いをメタ認知させようとする試みも見られる。

課題 今回の実践研究では、レベル5を意識した指導（ゴチック部分）が足りなかったように考えられる。粘り強く追究していく態度の育成や、論点を整理して話し合いを進めていくディスカッションスキルの学習が必要であった。また、この指標や指導の手立ては、稲田学級の児童だからこそという個別性の強いものであることも考えられる。今後も追試的な実践研究を重ね、妥当性を高めていきたい。

参考文献

- Mercer, Neil(1996) “The Quality of talk in children’s colabalative activity in the classroom” *Larning and Instruction* Vol6. No4. pp359-377
- 丸野俊一(2005)『教師の「ディスカッション教育技能」の開発と教育支援システム作り 平成14年度～16年度科学研究 費補助金 基盤研究（A）（2）研究成果報告書』 課題番号14201016
- 松尾 剛 丸野俊一(2007)「子どもが主体的に考え、学び合う授業を熟練教師はいかに実現しているかー話し合いを支えるグラウンド・ルールの共有過程の分析を通じてー」『教育心理学研究』第55巻1号

資料5 自分たちの話し合いを振り返る：考える練習タイムで使ったワークシート

A「友達と呼びすてにしていいか」肯定グループ

1 FS(女児) 2 AN(男児) 3 TY(男児) 4 IM(女児) 5 TY(女児) 6 HS(女児)

- 1 じゃあ、なんで友達と呼びすてにしていいかと思う理由を言っていってください。まず、2君から。
- 2 うん、友達と呼びすてにしていいかという理由は、えっとね……。友達を……。
- 3 じゃあ、おれから
- 1 うん、じゃあ3君から。
- 3 呼びすてにしていいい理由は、何となく呼びやすいし、言いやすいから……。
- 1 言いやすい？
- 5 からです。
- 3 です。(笑い)
- 1 言いやすいって、あの……。
- 2 どういうふうに？
- 1 何か、べらべらって口から出るって事？
- 3 そう。
- 3 富やったら、「富永君」っち言ったら何か言いにくいし、「トミー」の方がなれる。
- 1 呼びやすい？
- 2 あだ名やん
- 3 何か呼びやすい。
- 2 あだ名やん。
- 3 と思います。
- 1 じゃあ、4さん
- 4 呼びすての方が、友達みたいな気がする。友達で呼び合うみたいなの。
- 1 何か意見ありますか。
- 2 そう言われると……。
- 1 友達……。
- 6 呼びすて？
- 1 もう一回言って。
- 4 友達で呼び合うのもいいと言うこと。
- 1 友達だから呼び合った方が、
- 4 いい。
- 1 親しみやすい？
- 3 そうそうそう。
- 6 親しみ。
- 1 3 4 親しみやすい。
- 3 いや、お互い君とかさんとか付け合いよったら、なんかね……。
- 4 ぎくしゃくする？
- 3 うん。
- 6 何か変？
- 1 何か変ではないけど。
- 6 年上の人？
- 1 年上の人とか……。
- 3 そう。目上の。
- 1 目上の人に言ってる感じがするけ、あの呼びすてした方がいいと思う。
- 2 そうやね。
- 3 いいと思う
- 1 じゃあ、富は？
- 5 えっ。えっと呼びすてで言った方が何か、すぐに呼べるとかじゃないけど何かね。
- 2 覚えやすい。
- 5 何か言いやすい。うーん、なんて言ったらいいかね。まあ、何か用があったときに呼ぶとかが言いやすい。
- 2 言いやすいから？
- 3 言いやすいんやろ。
- 5 そっ、言いやすい。さんとか君とか付けよったら何かね……。
- 1 改まった感じがして、そんなのは何か話すのも話題が盛り上がらないような気がせん。
- 3 うん。
- 4 そうそうそう。
- 1 (笑) 何か、遊んだりしてても、「何とかさん、待って」と言いよったら、全然盛り上がらないような気がして
- 3 うん。
- 2 ほかの人もおるって。
- 1 じゃあ、沙也。沙也は？
- 6 えっと。うーん。何を考えよったつけ。(みんなで笑い)
- 4 賛成意見。
- 6 あっ、賛成意見よね。
- 1 うん、賛成意見。
- 6 賛成意見よね。
- 2 うん。
- 6 えっと、だれだれさんとか付けよったら、何か年上の人みたいだから……。
- 1 うん。
- 6 同級生の友達だから、呼びすての方がいいと思う。
- 1 ああ、じゃあ、有。有、何かある。
- 5 考えよったやろ。
- 1 何かある？
- 2 普通に友達とやったら、さんとか君とか付けよったら、ほんとに友達やないような感じる。
- 4 ふーん。
- 2 ○○するから。
- 1 わたしは、何かもうもともとずっと前から、さんとかじゃなくて「呼んでいいよ」とかそんな感じで言われてるから慣れてるし、「呼んでいいよ」というのは、自分のことを呼びすてにできるような仲だと思ってるから、呼びすてにした方がいいとか、呼びすてでもいいと思う。何か呼びすてじゃないと友達じゃないとかじゃなくて、呼びすてだから何か親しみがもてるというか……。
- 6 わかる、わかる。
- 1 さんとかで言ったら、あー何か友達は友達だけどまだそんなに深くまでいってないんだなあと思う。
- 3 そういうふうに思われんちゅうこと。
- 1 じゃあ、まとめたら……。呼びすてにすると呼びやすいし、親しみもこもるし、昔から慣れてるからというのでいい？友達みたいだから。(口々に「うん」と言う。)
- 3 それでいい。
- 1 それでいい？
- 3 それでいい。